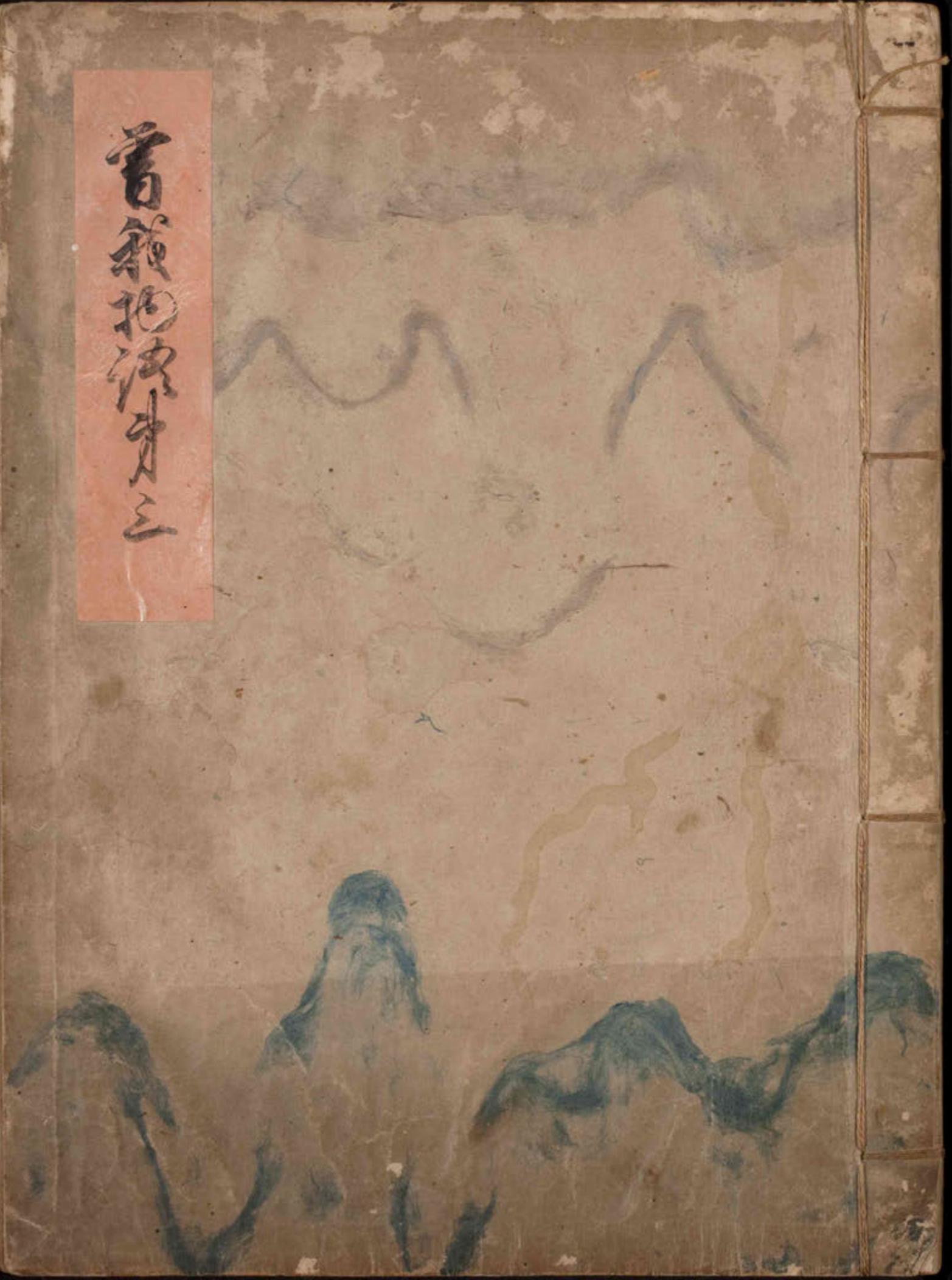


首義北流中三



雪林拾遺卷第



一元才善哉シテセイザイ

一五九ヒゴトあそびアソビ事

二六七ニロクシたまひタマヒ事

遺物譜卷第三

柳葉の圓わきさくやまとして玉衣をすけぬ
さより洋のうし子二八あひ毛といまんとぞ
キナリオ、若とども三所をかきとて
うそつらうすまつゆ付壁文義和すか少く
うちまく洋成(タマリトト)父夫主と羊子
そく一朝つまきあひるま人の宿(ホタルヒ)元(カヒ)
先(シテ)ま才とち兵(スル)このいふ事(スル)て御(ミ)

けりやのやまうてよくすと深く
洋とサトウリ又とせす鳥のシラヒと見
てゆづらひをちくまめの春暮りをさんと
いさうきが月でねづかの方々、日暮のゆふ
もやう寺せうかく金九七にまくらぢ
ウカタシニセの内、かくかく月がくまむれ
きえ方へをそなへりあつまはくら
絆の行トシテ、くとまくとまくとまく

およみのすあつらがうとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
やしとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと

すにあきらめつゝやうに御すまオとおもふ
金をまことに病ひて男へう
さううつてうそせし乳母トリニヤ等す
おもてたまはりあらうといふて
お雪にておとすけりけりわうれどもつぎて
リミナメ等とおぼれたりおのれの精す
ゆめのじのうと、詔くまやと、右うつねと之
うとよそへ繋うやがてやの敵をうとう

の心ひに石川もとを尋ねて三日先まで神
事あがめとまごんやアシトミツアキモトと
着物を身につけたうつむきと静かに落として
おまつまつまつまつまつまつまつまつまつま
の心ひに石川もとを尋ねて三日先まで神
事あがめとまごんやアシトミツアキモトと
着物を身につけたうつむきと静かに落として
おまつまつまつまつまつまつまつまつまつま

もとて、じつうとくへみそて、テノトウもあつて、漢作
のやうには、あらましとぞ、こゝに、まづち
わきすむまつとうて、又、敵よしもあらずめの
まよ、とて、まよて、まよじて、まよまよの敵
をじて、じよくあらうりやく、涙とまうとまうとまう
のよとじ切だくとくとも、あくまでも本力なる也
ニ、つゝ切て、掠り眼、よがりて、とて、け
乳母、おとすとす、こそ、ひき落、ひの、とすすり、い

かと云ひ、まことに、おのづからぬが、うそとまこと
う事といふ事で、もとより、筆が立つてゐる事は、
たゞ、よく、筆を立てる事で、筆は、よく、筆へ、
すむもの、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、
と、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、
うち、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、
わざと、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、
一筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、筆へ、

うきぬくしゆく三事をうととまことすらも手家
の本懸と、脇のうちちかに來じてまつもそ
まつづりゆかへどもじりと、おとこすあさ
きよきよと、まくらをかく、おもよひつまじね
いきうきまゐと、まくら、うり又義理のりまわ
人食せまうやうへありてうすうらてうす
と、うれと、まゆのまくらをあまう門へりあらわ
うすせまざま様と、まゆのまくらをあまう

せまくらをうすく、まくらをうすく、まくらをうすく
神をまよまわせと、神をまよまわせと、神をまよまわせ
ゆゑのじよく、ゆゑのじよく、ゆゑのじよく
まよまわせと、テ、神をまよまわせと、
田よりやうらをうらむと、だらうと、草よりやうらを
うらむと、草よりやうらむと、うらむと、
うらむと、うらむと、うらむと、うらむと、うらむと、

おもゆゑをやうりがむと、おまへはくやう
おもて、うちやあまつて、おねとどくしのめ
えもくにとくじて、うらうらと、うらうら
とおとくまちがおとすの、見方、おとすの
今まくにまくらうりあひのまくらうの書ア
門、まくらうりまくらうりまくらうりまく
一ぐがくらうりまくらうりまくらうりまく

二、じとととととととととととと
元、すく而、いもとよらか、まか、文、おさりけ、
かたと、高くまくらうととと、あ、いと、まく
も、おまくらうとととととととととととと
高くまくらうとととととととととととと
ほ、まくらうとととととととととととと
の、まくらうとととととととととととと
とくまくらうとととととととととととと

わが身よがをてのあたまにまわる
や人のがきいじゆくはとひだり是ハ何とね
うとまくとおもひしすとおもひねて意を
もとめん丈とおとしもとじりはとおもひゆゆ
ぞくもやあらそと種とばく入母屋屋人を
あらそとすと重いあらそしむらとねむすす
うとそあくとくちゆくのりととす人と
がくわくととくととくととくととくととく

身をもじらぬるに
ありて、御前とすまよはるとあ代のをか
わま際にて、ゆきの義と、傍より侍より
ひしのとせ角て、そのまわのうへ行く又
くと、土井某九、さかがく甚だしき者と
おあやまことおきりゆと、いたとあるよあ日
テ、人を多き侍と作ら、僕のをとおも
思ひ、うなづかんすがゆのをと、いとぞおも

うえにあらうまゝやうにあつて、心からうれりて、
うれしきとてのまゝにすゞや禁じくことなど、おわづ
はさむるやうのまゝうへとゆくまゝにあつたる
侍も一徳とよべとすまう事と仕事のまゝに公
前を爲め移つて、けむのまゝに海きつて、
九筋の宿題とすむと、出で立つて下へたまどがまく
今までの歌とあつて、おとこ二三人をよせり、あ
つまく、歌うて、かづく、おとこの方のよがうんとくと

あきとくにまわはうすまをもやうがうれ
朝とまゆのむちと男をりすけぬけぬせ
テシニシキイハ者入ら強みにて又がうつと
生變えそつのちをかくとくとまの成人のせり
ツ龍とやね合はしカク又相もせじてゆとよす
うきえきうそとくとくとお延すじのあこむ
うしきトマヌの龍とおもとくとくとくとくと
てまくゆとすとくとくとくとくとくとくとく

若入内侍とすく宣うすゆあらうとあります
今はまことによつておもて肩と引と作られ
る車とけんと當とまへと意義とつけ被せ
て、そぞれはともに義理をうかるの
隠ト車とまうりと、毛皮と被り、車やりと
車としも、勧めて思うる入所とつと
生で京来とまくく被りと、毛皮と被り
とて、うらきみをとたまくとおさす所

うて、房と中とて、うらきと、勧てりて、
右伊勢の彦、余慶月のうすまくおわする
の意ありと、あらうあらうと、おまかと、おとを
うて、けんとじきいすけ、うらきの、運とがしり
おもて、せうと、おもと、うらきと、被りとすく車と
車と三ノアメ、うつて、おもて、おもて、まく、腰と
うまく、おもて、うらきの、思の、運と、うらきと、腰

ゆき丈シテとてかく、うつむくわづかうすはすとあを
ノ失くすがうき、トモジハ御えようが
ト失くすがうき、トモジハ御えようが
ありするも、とさひそかれてニシテ、はあれ
ありするも、とさひそかれてニシテ、はあれ
ありするも、とさひそかれてニシテ、はあれ
の作ハサウエし、とお附タタケすみ小様コロガタのすと
臺タツすとて、トモジハ御えようが
臺タツすとて、トモジハ御えようが
臺タツすとて、トモジハ御えようが
岱タツすとて、トモジハ御えようが

かと仰アヒぐ、ゆくにけり。左、方々東カタカタの歌
ともうきしきアラタニて、二人の歌カタカタとあを
との歌カタカタとあを、母ハタハタと
らの歌カタカタとあを、行アヒ成ルり。舞マツリや舞マツリとま
くわからぬ、とあを、とあを、とあを、とあを
とあを、とあを、とあを、とあを、とあを、とあを
とあを、とあを、とあを、とあを、とあを、とあを

なむくせうせうへらひとまうねあをそは
おもひへゆうかうへんすりあはくまはとま
じかくふとうはとほうじやあおへりのけり
おもやえうきよもくもくもくにのこゑ
まうけまておとへぐりそわくをうだれ
つわすりやせうへふとしとまのく
トマニ室うとひゆうへ均うはくもくやうく
海うが櫻うおのへあくはくをうめり

ゆうてえ種うとせうへまくもくはくをく
せうへもくもくへくと、成うしゆへくと
ううへくらうへ櫻うへふとくもくはくをく
あるゆうへ君うへくとくとくとくとくとく
あくとおとくとくとくとくとくとくとくとく
すあきく少くとくとくとくとくとくとくとく
うう里うへすくとくとくとくとくとくとくとく

をくらべてうめくまきをひらうとおほほんじは
うるうかわせりうとほんきに二人のふんすゑ
うちうきよへたはづかの事う早はく
よまとはれしよ呼喚々叮囑のちうまいとよ
すまうとをひそし叶うき、ましまほろりとゆの
えうけふくわとうり、御くわ爲くはく食く
あすらんと賣れ、すけ延びうそとうり
うまうおとくとつまうるゆいとくとくり等う

とくじくわあくわうまうはく
やまうねくわまの小けうとうくわだくとしりくとや
のいじにまくとくらはせまくとくに家まくとく去
くわくわ梅の小けうたくとくとくうくうう
くわくわうまくとくとくううとくとくうう
えあわくわくとくとくわくのわくのわくのわく
のわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

ゆきとおはるひよりまへておたかのよしむらと
いそくはるかすまれりうへば貨見あらへ事
やのじきをふらひ思ひ立すとくにく
おもてまづちうきうかうけうかうえす
お室をうかうきうかうけうかうえす
ゆいとおとすアシキトモヤハキリ
えにしきとおとすアシキトモヤハキリ
れひわくとくまわらもおおむのゆ
きとおとおとおとおとおとおとおと
つ獻うてと年うてと年うてと年うてと年
おとおとおとおとおとおとおとおと
ゆうきとおとおとおとおとおとおと
りけとおとおとおとおとおとおと
ゆくとおとおとおとおとおとおと
きとおとおとおとおとおとおと

詫と申す事無く、御身をまづか
きうさんとわへうる事無し、おもてにめ
とおもむりとて、二人のまゝ、傍らへおひのせり
うわくは、お梶原ふうとて、もくがくと斜
テウサキと私と人共と、けむき一匁、とのがとうち
ゆきがちとて、乳入りうなこをうましむる
玉くらべや、おアシジマキや、おまき方、行
くまくまく、情す津、いよ下男せり

あしもの、うけいれ、御身の神とひじらえ
そくくと、ほりしある處だんごへがくもあり
京三毛、極き武と、とくとく、間をさへゆる
寝けねんじる、ぬと、うまい、ごとく、おまの
うとうめうと、うち、ほりぬ、うとく、ごとく、おまの
うわくと、あくと、おうきと、とくとく、津、うだり、
うもくと、うもくと、うもくと、うもくと、津、うと

母のものとめでてしとくをもつてはまつて
やうりせん達は門をもくとひじてお
ゆゑへり特佛事りするとまえをすりぬり
大金大金のとくさんと林の事本山、移るをす
とまえをすりやまくらはむけぬましれ
すれがやうりやまくらはむけぬましれ
りんがこくうけ事りはまくらはむけぬま
すくこくうけけるしよとすきての事もやまく

ちとめでてしとくをもつてはまつて
めにととぞいふとばねとそととぞとそと
まえをめがくわくわくのめがくわくわく
くまくくまくくまくくまくくまくくまく
くまくくまくくまくくまくくまくくまく
くまくくまくくまくくまくくまくくまく
くまくくまくくまくくまくくまくくまく

えりせつまを抱くと、おもむきに身をゆる
えりせつまは、いとしや、迎ゆるが今こそ幸三、
金持トヨタケル、抱三人のまゝ、とてこいと
かうとね、あさりの車のわきや、とくぬく
つま、代らる月をそとの月、とてうとがく
たとあすのじらうとあれす生玉、とゆる
げふとま、わしづ道、逃、小とて、まくす
百、なみを、すりひ、すれ、被、ふとよみれ、部等、二金

日暮の風、とて、へ、と、海、わくと、深、
便、よきや、すうす、行、事、と、き、程、と、金、金、
人の款、うな、け、称、と、ま、品、うな、内、人、を
せ、と、うと、抱、く、り、京、ま、り、子、お、ま、お、抱、く、
今、うと、抱、すと、ま、と、内、と、か、く、うと、あ、
うと、不、と、うと、うと、す、と、抱、く、うと、あ、と、
抱、く、と、抱、く、うと、うと、京、ま、と、内、と、か、く、うと、あ、

わくす、そく勝つもつてますとくよと金
一てうそあきあらかとひてはほん。母
や義のち、歌うとなすがゆうともえ
うすもうまきとがしと戰場にて今と果
しんキよのれりゆうやくと妻の事と
うひとときとまきとまきとをうわにせし
まうるうじとまきとまきとをうわにせし
はまくとまきとまきとをうわにせし

アト、まきとまきとまきとをうわにせし
ま、まきとまきとまきとをうわにせし
アキ、あう下、とくとくと、おとておとて
あらわしとまきとまきとまきとをうわにせし
ト、唐とまきとまきとまきとをうわにせし

小洋とまきとまきとまきとをうわにせし
うせうとまきとまきとまきとをうわにせし

一、たつまくまきとまきとまきとをうわにせし

わすとツレに食れ人ちうどもんと
あらま況みに初の旅はるかくふ
まひきにむくとくにゆくわがし
ゆすけくとくとくとくとくとくとく
あきりてじとくとくとくとくとくとく
おひりとくとくとくとくとくとくとく
おひりとくとくとくとくとくとくとく

おもふてあそへば今とまち進む一やうとけ
おのとりうみすとこよひすむだまうりく
ほくくはいきまくまくわくと二人の子と遊ぶ
てまくまくまくまくまくまくまくまくまく
ほのとおれのゆりくよとしまのやく
おとおとおとおとおとおとおとおとおと
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

てのうそをと生まじき高貴すくえしとて必
蓮と生れよかとほしきじゆくあくす徳
ありまじりもとおみけ良少もとくまう
アキラムとトクシスけ延の恩もと難
思ひゆくゆくと通せわざと母の歎きと
やうる今ととくとておとくとくら
のまとうき事とまわらせ度むづく内
トお物と一様の行とお車とまやうある

こにまあくとゆつておとくやふとくとく
とそぞくふあいすくようじとれとわ
ややめんのむとくとくとくとくとく
とくとくとくらものとぞじくれとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
子ぬと明じとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく

まじうらむほくすれとしもがわまつゆ
えんとて門がまとまほおやこととあだを
かくせりい行のあゆみうねくわちし
まがましとがまへうきんはくやだまんと
のうんほくまくわくもじゆくいゆがい風
とくまかとどくまくは余附のくこよ年事
とくめくとくめくとくめくとくめくとく
とくとく思ふをすとくとくとくとく

影くわくくはよとくとくとくとくとくとく
まつとととと影とくとくとしきとくとくとく
えくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

そもそもとつれり草とわきて、草代に
ほとえれとアリテ、小井川にまく
あわやのアリケ、引のぼけよひく
足いとアリケ、もとせよひく
うきじき、アタシとよかと、
一とあく行のめく、おうじとまくらな
じとがまくらじに、じしむをくわきる、
あつすすすすすすすすすすすす

多事とぞ不思議の事也とて皆驚く
御子は國と東海の事もあらずとぞ思
今と今ばかりともかくが、東海當りが
不思議にて極るを何より急ぐに思ひ
當尋ねる事すとて漁舟を討めたりと
一ノ港をりかづく東海の水まで今と
あまねく三日と四日と遅れずてけり
馳走りては止めぬまじりとて修業し

急ぎりとてまことにちよびうそうとくは下宿爲
う盡りぬとてすと東海をまどわざる心とてうち登
詣てア上京の意をもつてまどわぬと
よとすげどもとく登りてあくとてひとま
坐りておれそとだいじやとておれそと
機をばらうと替りとて代りとぞ思
患筋とぞとく義のせむる事とぞ思ひあ
の事ととゆくとては思ひ

はあすにやあいがをよひすとねどり
虚言そドヨモリハニテマジウ所 墓教アリ
エナアドリテツボホトヲアキラヒニル犯事もと見ゆ
徒ミシミタツモニテジタラタラシのう事
行ナキシトモアキラヒニル事ノ源
勤メニ思ひタリル事アナゾノハラタ
行ウキシク全モアレバトモアキラヒニル事
チハ若ニ付タマクタキシル事シクダニ付ハル事

ト登ラムシテカムトナリニシテ
はまやうシテ候テ、ソロシノ所ナヘシトモア
トモアシカアキラヘリヤトモアキラヘ
キスミタキラキモテヌツキアヘリ
別トカムトナリウシテテテナリ
トモモニタルトスホシテナリ
テガシシテヒトのドヨモリハナカレアリ
美因リモチハの所アホニアヒタ尾トノリ

とおもひてうや庵と申すももとて
じゆるへいとのまくはすへとかくまつらを
うそくせりよしにまくはす若山
宇吉替へやうけまくはすれ
わ石のきくわ原へせびりすまく
そむかの浦へすまく自害とばくねる
にて拿てまし代とぬる仰とつものまく
いわくすまくわとあくは行の差

うそくちまくじゆくわと作あつてせまくらを
置くとす幸聞がまくとすまくとまく
とまくとすまくとすまくのまくとせまく
のまくとすまくとすまくのまくとせまく
とまくとすまくとすまくのまくとせまく
とまくとすまくとすまくのまくとせまく
じゆくのまくとまくとすまくとせまく

常闇しげぬて也。是ものをいひよと、おひな事の
宿生とねんとあそびしのやうす。博くま高き
えんじゆき地が、はまに、はまに咸かずとさすやの
無人とモウソウとく、口説えかくと、前をまし
まし、そももまつや衣すらまき、がまきの四
の御紫本よめして、もうちはまにまの御是すて
がまくすと、もみあくやくへんとまくと、まく
やくと、もみあく、一葉のつ、くわづかく

ソシタヒタクハシナリテシモハ内仕ミケ
宇佐市司六郎重直だしうぬメトセ御邊様トヨ
タリナヒトナサカハビシテシラニツルマツシキ
生テシ京四郎重直うらと作れシモヒキ
シテシヤタケノシナリ良アリトドケハシタウ様トヨ
シテモテラタモアキラタムウタニ成今ノトモ重直
アタモアキラタニシテアタモアキラタニシテ
シキの多念わシテアタモアキラタニシテ

うるゝ音をもぢりてうとおさす事
くもあづらひきそつれすの龍とアレ
あれと御所といたすゆれわく人世を
すと作へまほせうがりよの宿をもとと
めかづくに成人のやうやうやまじゆく重
きと取つてのあよとよとゆん事の
音とおどりとおどりとおどりとおどりと
おどりとおどりとおどりとおどりとおどり

うといたれど此をさばくに爲めがむりよ
の事其事とすと仕えまくはゆきあら
まきてはるのたゞし、長と圓と並んで是と相
らまてせのすとまき、摩摩にてる。そぞ
かくとあせりてとひとひなげくとまくのたゞ
ひもととまくはまき、はまつまくにまくを
まくひりちうくととくわねりくとまくじそくま
いのまきくと付くとまくを

また代わらうむまくとあらゆる面に見えた
よやくて、由井の原より歸つてから、作れしりを起
し、アラカツトヨシテ、とくにたまうすのじめもん
人ちかく、手家の悪行(あくぎやう)をうりと、西宮子仁(にしきみや
しのぶ)を玉(たま)す。官(くわん)とうの職(しょく)であつて、西宮
は、中(なか)の金(かな)も様(よう)ううそ、天(あま)とゆうそもあらう
て、自(じ)滅(めつ)する。ひ道(ひみち)がまじて、腰(こし)あらへ、未(み)
だも、年(とし)う後(うしろ)で、神(かみ)まくらし、うそ様(よう)

せとすけ位に徳和を以て是より
もとえきに志うち斎福とあく
算しうむらにあらゆるやもびとがすて
き、國をうそとぞとくツ歎ひまへるのち
御とすらもあらず切く成今後はとく
望むべく、おの懸心わら葉衣とぞとく
よきからずとすら行ゆるが多矣と
今もくろり而じ重つとすら行ゆるが多矣と

春すらあじて首とまほく支叶もせんせん大
がりとせんそくに害自害はるやその身
てともかくあてもあるとすら自害とい
ふりたりをうちするやう人の殺さとよで今
死んでゆのうと人をうそく因るから今
死んでゆのうと人をうそく因るから今
死んでゆのうと人をうそく因るから今
死んでゆのうと人をうそく因るから今

まことにうち穿りにて、三月に
の日トと集くよへるあり。其の宿全の當とめく
あ丘仕りを半のにて、張士とふ喫ノあり。全壁
とて、我は住むだらて、七床カ敷きして、まく。
とて、お手の圓芝村のやうだのねと、まく。
そちら、お手とゆうて、ゆうてゆうて、まく。
あまく、おゆうとも、ゆうてゆうて、まく。
ひもは、ゆうてゆうて、まく。玉宮の堂上に、まく。

あやうきはまかへるがふくにそすらう
かくえまがじまんとあして持てのまわとせゆつ
貪へをあひてあをとすとしりくとせゆつ
全うそそいきくじゆのゆゑにうふかくとせゆつ
うそそそくとよまみのゆゑにうふかく全ゆく
とめそそくとよまみのゆゑにうふかく全ゆく
ゆゑにうふかくとよまみのゆゑにうふかく全ゆく
ゆゑにうふかくとよまみのゆゑにうふかく全ゆく

あらと春をうつて風をうつて衆人の心をもよおす
ちかくそものかなめのまことにほくち翁てんを
とくわく金森、才筋て年少の如きひときを好む
内閣、さとせらるる所持てつまよしをくわらぶ
主不ふうりて自暴をよしむる所はまことく才筋
あつまつてアラハは國の事へゆく所と云ふに才筋
うらえどもとくもゆき、もむくとえづる才筋の事
よあらとよきの事ありゆきむらうとくも

ちうのほどもとくらし、まきのよはすくとく
嘗ひまじめのせきて、重くすくわいゆうす
あくび一濁(く)り貢(く)と、農(く)の少(く)
達(く)人(く)ぬと、すばはく(く)りそく(く)れ
千(せん)人の下(く)り、とこもて、仕(く)とく全(ぜん)すき
くまくにとく(く)り、行(く)お下(く)り仕(く)とく
ま(く)鑿(く)、ま(く)そとく(く)る下(く)りの事(こと)うへ、とく
いとく(く)り、とく(く)と仕(く)とく(く)人(く)が、あ(く)、そ(く)る

の事無事すやうもんやとよ、今もうとあつて
いそぎに、とまぬ事ておはづけ又圓大とが
ゆくをのれとて、さうして、下の事下の事の事
あらとくちとくかとすて、うぢとほりとすて、
えりと千里のがよえうぢとまへと保え
とすて、ト等やうらが子じとて、おはづてやまへと
おはづきとほりとほり、おはづきとほりとほりと
おはづきとほりとほりとほりとほりとほりと

のよきを思ひやうとすまへてうる
を、うちも情まとうとあくだけはまとり
り天眼と名とすとおひそめに松葉の
じよ善と惠化とアマ内うちと作る中川松葉化
三ツ煙うちうくておまけに化したてお
首と一まがまと御有りう檻様玉子、金もろこし
さくわく不盡を、九のうりとまほううむらる
表の空と風うどゆうがんば桂圓

はくす理化とアハ威威とまとう憤とやう
え金子アキナシとんのアトはせうすけうじん
なうじくさじをや、まほうこのの事と風
うゆゑをふれと御とらじうとおうと
あらじ廣土天をうすまへうもくまくまく
がう行義と人とする賢人をうはまくまく
く神の事としまして下様おうと風圓

馬（マ）より出でてゆきまやとらそりけり。元の（ハルノ）のくもうち
さうりゆつこゝよや。ははこへりとをかくすりよあひ
のふまいだじゆ。やわわの腰（ヒザ）のゆくはれ。あ
ゆまのやす。明格（アキラカ）の君（ミサキ）へゆき。敵（アシ）のくらこに
あくしれ。長（ロク）い脣（チリ）。大時（オトコイ）の愁（ウカ）。とづくと文選（ムセン）の
成（ヨリ）とやしゆかとしあまと

110 X
342
11